

創学舎二コース

No.258

受験勉強を

人生に活かす(3)

考え方の切り替えが迫られる時代

今、我々は有史以来の大転換期を迎えているといわれていますが、その実感がありませんか。実感がある方は、きっと受験に對しても適切な対応ができています。

そもそも時代の大転換期とは、一段と高いレベルの時代に向けて飛躍していく一大変換期をいいます。

したがって、この時期には、われわれ一人ひとりの生き方をはじめ、あらゆるものが質的向上に向けて、考え方の切り替えが要求されているのです。つまり、従来のままでよいというのは何一つなく、すべてのものが自然の原理・原則にかなったものに再構築を迫られるということです。

とくに健全な社会づくりの基盤である青少年の育成と、それに深くかかわる「受験」について、それが急務です。

価値ある仕事として打ち込む

受験を有意義なものにするか、苦しく不毛なものに終わらせるか、を決める大きな要因の一つは、受験に對する価値観の相違です。

たとえば、未開社会における大人になる為の通過儀式です。ある部族では、高いやぐらを組んで、その上から片足にロープをつけて、頭から飛び降りることをさせるのです。たまたま、そのことで命を失ったり、大怪我をする

子供もいるそうです。まさに子供達に「自立」と「勇気」と「社会適応」を瞬時に迫る儀式です。それに比べれば文明社会における通過儀式である「受験」はまだ合理的といえるでしょう。とくに「高校受験」「大学受験」には、普通、問題には上がらない、教育の根本目標である「自立」「勇気」「社会適応」などの能力が要求されていると思います。

だから、わが子の受験を成功させるのも立派な我々の仕事ではないでしょうか。受験を通じて、将来への土台づくりをしてあげれば、本人の為にも、社会に貢献できる人材としても世に送り出すことになるのですから、こんなやりがいのあることは少ないと思うのですが、いかがでしょうか。

それに、仕事は自分自身を磨く柱でもあるのです。「わが子の受験」という仕事とて例外ではなく、取り組み次第で、親も自分自身を高めたり、さまざまなことを学ぶことがいくらかでもできるのです。(アガトス研究所)

旅行



先日の連休で、私は岡山の親戚の家を訪ねる傍ら、京都に宿をとり数箇所見物してきた。京都といえば、私も中学校・高校と修学旅行で、大人になってからも法事などで訪れたことがある。今回は、私の妻が京都に行ったことがない！(修学旅行などで一度くらいは行ったことがあると思うのだが...)というので、ぜひ行こうということで行ってきた。

中3生のみならずこれから修学旅行で訪れることになるようだが、他の土地に行ってみるということは、様々な体験が出来るので、是非積極的に参加して欲しいと思う。

まず、文化が違う。海外などに行けば言葉をはじめ、環境など全てが異なるので明らかだが、同じ日本でも違いはいろいろある。今回タクシーに乗って初めて気が付いたのだが、京都の道は細い一方通行の道にも全て名前が付いている。しかも歴史的背景まで分らないもの、ただ単につけた名前ではなく、歴史を感じさせる名前になっている。他にも料理や、町の雰囲気など、気が付くところだけどもいろいろある。その違いを楽しむのである。

そして、その土地の雰囲気やよさを感じたら、自分たちの土地にも目を向けてみる。小さい頃から成長してきたところではあるが、自分が他の土地に行ってみて初めて気が付くところもある。自分の住んでいる土地のよさを感じる事ができると、その地域に対する愛着もわく。大人になると自分が育った土地に帰りたくなる人もいるようだが、別の場所に住んでみて、自分の育った土地のよさを知り、懐かしくなるのだらう。

もうひとつだけ。私は親に連れられて、毎年あちこち旅行に行っていた。特別な行事になつていたわけでもないのに、自分でどこに行くのか?どんな土地に行くのか?よく分からず、ただついていっていた。今思えば、非常にもつたないことをしたと思う。せめてどこに行つたのか?どんなところだったのか?意識して見てくればよかつたと思う。これから、修学旅行などで別の土地を訪れるみんなは、是非自分でもどんなところなのか調べて、意識的に周りを見て、いろいろ感じてきてほしい。積極的に働きかけることで、同じ旅行もかなり豊かなものにできるのだらう。

(松永)

創学舎に通い始めた

皆さんへ

ビタミン

タンパク質・脂質・炭水化物は、身体をつくったりエネルギー源になるので、三大栄養素と呼ばれます。我々人間が生きていくには、それ以外に少しのミネラルとビタミンが必要です。ビタミンの多くは、サプリメントとしてコンビニでも手軽に入手できますね。

ビタミンそのものはタンパク質のように体の一部になつたりはしませんが、例えば、ビタミンCはお肌作りに、ビタミンB群はエネルギー効率を良くするために、潤滑油のような手助けをしてくれます。自転車のチェーンが錆びて、油が切れるとペダルをこぐのがとても大変ですよ。錆を落として、オイルを注すとかなりスムーズになります。ビタミンを摂取することは、このことに似ているかもしれません。

身体の中だけではなく、私たちの日々の暮らしの中にも、ビタミンにあたるものがあります。勉強はもちろん大切ですが、勉強だけでは大変ですよ。休憩も必要です。音楽を聴いたり、読書したり、映画を観たり、友達と遊んだり...。(ゲームは個人的には大反対です。ビタミンの中にも摂りすぎると害になるものが実際にあります。)

塾はビタミンか?

さて、創学舎に通ってくれている生徒の皆さん。皆さんは、日々の生活のなかに、「塾に

通う」ということを組み込んだわけです。学校部活、他の習い事などで忙しいかもしれない生活の中に、雨の日も風の日も、疲れていても、貴重な時間を塾につき込むという選択をしたわけです。

この「塾に通う」ということは、日々の暮らしのビタミンの一つでしょうか。

実は、「効果を確実に上げる」という観点で見ると、お手軽なサプリメントとは大違いなのです。塾以外の習い事もそうです。例えば、スイミング。コーチの泳ぎを見ていれば上達するでしょうか。見るだけで上手くなるならビデオで済みますね。自分がザボンと飛び込んでバシャバシャ泳ぐから進歩するわけです。ピアノは？習字は？

塾の教室でも実は同じです。いすに座って、前を見ていれば何が劇的に変わるのでしょうか？ピアノの教室でも、習字の教室でも、塾の教室でも、肉体的な、さらに精神的な積極的関与(自ら求めて動く姿勢)が必要です。座って何かを待つだけではいけません。皆さんは観客ではなく、創学舎も劇場ではありません。実は道場です。

最後に、道場で上達するコツの一つ。指導者の指示を実践してみるのももちろんですが、上手そうな道場生の真似をしてみる。「あつ、あいつなかなかやるな。」と思うコを見つけたら、密かに、しかしギリギリキラキラ、どんなことをしているのか観察して技を盗もう！(答えはギリギリ見ないでね。)

(五口市)

天上の音楽



ある休日の午後、何気なくテレビをつける、若々しい歌声が流れてきました。高校生の合唱コンクールの全国大会の模様でした。私は、合唱にはそれほど詳しくないので、普段なら途中で番組を変えてしまうのですが、このときは思いがけず見入ってしまいました。高校生たちが歌っていたある曲に一瞬で耳を奪われてしまったからです。何と美しい曲なのだろうか、美しすぎる！瀬戸内寂聴作詞、千原英喜作曲、「ある真夜中に」。天上の音楽とも言えましょうか。大げさなようですが、何とも形容しがたい感動を味わったのです。

『ある真夜中／どこかの星の熱いため息が／花びらになって降ってきた／花びらは舞いながらささやいた／わたしはここにいます／そして あなたがそこにいてくださる／ああ何というしあわせ／たとい永遠にあなたの額に／たどりつけなくても』

ある真夜中／どこかの星の熱いため息が／雪になって降りしきった／雪は身を揉みながら歌った／わたしはここにいます／そしてあなたがそこにいてくれる／ああ 何というよるこび／たとい永遠にあなたの唇に／たどりつけなくても』

音楽は、現代的な語法が使われていてかなり難しそうなのですが、それでも、心を捉えるような美しいメロディーが随所にちり

ばめられています。

そして、瀬戸内寂聴氏によるこの詩です。周知のとおり、彼女は現在は仏門に身を置いている方ですが、若い頃は大変に波乱のある人生を送ったと聞いています。彼女のこの詩は、情熱的であり官能的ではありませんが、同時に、不思議な清潔感や包容力にも溢れています。詩を聴き取りながら、人間という存在を俯瞰するようなその非常に大きな世界観に圧倒されていました。

この曲を聴きたいがためにずっと見ていました(課題曲なので、全団体が必ず歌います)。こんな素晴らしい歌を歌う機会を得た高校生たちがうらやましく思えました。同時に、縁というものの不思議さを考えずにはいられません。あるとき気まぐれにテレビをつけなければ、おそらくこの音楽を知ることには無かったです。それで人生が大きく変わったわけではないにしても、この音楽を知ることで大変な充足感を得ました。すると、実は私たちの周りには絶えず縁というものがある、一瞬一瞬がそれとの巡りあいを果たすかどうかの岐路であるとも言えるでしょう。

天上の音楽とは、まさにある種の靈感によって書かれたと思えないこの上なくすばらしい音楽を指します。こうした音楽との出会いはまれです。だから、出会えたときは、その巡り合わせに大変な幸運を感じ、感謝もします。

しかし、実は知っていたが、良さがわからずに、後になって素晴らしさに気付くことも

少なくありません。この経験のほうが多いかもしれません。音楽でも、読書でも、まして人との出会いは……。一体、自分はどれだけの機会を見逃して来たのだろうか、きつと気付かないまま感謝もしないで生きて来たのではないか、そんなことを考えさせられました。

千葉は中学や高校内での合唱祭が盛んなので、ぜひ生徒たちがこの曲を歌ってくれたら嬉しいなどと思っています。(音源に興味がある方はYouTubeというホームページで曲名を検索していただければ無料で聴くことができます。)

親子の関係・いじめの周辺は休載です。



受験生は読め！(合格のヒケツがココにある)

勉強法・精神面のケアーなどについて、創学舎講師陣が書いたものです。非売品です。希望者には無料で差し上げます。

愛の壁 お父さんお母さんあなたの愛は

子供に届いていますか (著者 小林 憲右)

創学舎ニューースの編集責任者 小林が二十一年間書き続けてきた記事の中から抜粋・加筆したものです。

浅野書店・ブックス鈴木・新星堂他全国書店で発売中。

卒業や転校等で創学舎を離れ方にも、ご希望があれば創学舎ニューースを無料でお送り致します。在籍していた教室までご連絡下さい。